

創立150周年に向けて

秋田県立秋田高等学校同窓会会長 銭谷眞美（昭和43卒）



私たちの母校秋田高校の歴史は明治6（1873）年にさかのぼる。その

秋田高校は、2023（令和5）年9月1日に創立150周年を迎える。記念すべき日に向けて同窓会は各種記念事業の準備を進める。創立150周年に向けた銭谷眞美同窓会会長から同窓会員へのメッセージ。

前年、明治5（1872）年には近代的学校制度の確立を目指した「学制」が公布されており、秋田高校は、この文明開化の時期に、西洋の学問や語学を学ぶ中等教育段階の学校「洋学校」として誕生した。小玉得太郎氏（昭和18卒）は「先蹤録」の中で秋高は「洋学校という超ハイカラな濫觴をもつ」と語っておられる。

その後、太平学校、秋田師範学校、秋田師範予備科、秋田県第一中学校など改称を重ね、明治34

（1901）年秋田県立秋田中学校となり、戦前は長くその名で親しまれた。この間、三剣菱章の校章は明治26（1893）年に、校歌は大正11（1922）年に制定されている。

戦後、学制改革により、昭和23（1948）年秋田南高校となり、昭和28（1953）年現在の校名となった。

秋田高校は、その長い歴史を通じて、秋田県を中心校たるべく、自由の校風の下、品性の陶冶、自主自律の精神の涵養、文武両道の実現を目指した全人教育が行われてきた。在校生は学業、学校行事はもとより、部活動にもはげみ、全国レベルでの輝かしい実績を頭わらしてきた。同窓生の活躍は目覚ま

しく、21世紀初頭の同時期、東大と東北大の総長とともに昭和36年卒の佐々木毅、吉本高志のお二人が務められたのは記憶に新しいところである。

私は、在学中「羽城」の編集のため、当時の同窓会長古村精一郎先生（明治43卒）にお目にかかったことがある。先生は長く秋田中学の教員として生徒に慕われ、校友会歌の作詞者でもある。「和して同ぜず」の教育観やお人柄にすっかり魅了された。今、同窓会館羽城館の傍らには古村先生が書かれた「心外無教」の石碑が建っている。教育は真心を尽くすこと以外の何ものでもないとの意味であり、秋田高校の教育の精神そのものである。

創立150周年を迎え、私は、母校の歴史をふりかえり、今後の発展に資する記念事業を展開したいと思っている。

令和4年度総会 6月26日に開催

会議・講演会・交流会を開催 懇親会も行いません

令和4年度通常総会・講演会並びに懇親会に替えて交流会を開催します。新型コロナウイルスの終息が見通せない状況ではありますが、来年の母校創立150周年に向けた重要な総会ですので、皆さまのご出席をお願いいたします。会場でも、十分な感染予防策を講じます。ご自身においても、特段のご配慮をお願いいたします。

—— 支部長会議を11時から開催 ——
昨年延期した、3年に一度の支部長会議を総会当日11時から開催いたします。

○日時 令和4年6月26日(日)

○場所 ANAクラウンプラザホテル秋田
(旧秋田ビューホテル)
秋田市中通2丁目6-1
電話 018-832-1111

○総会 14:00
議題 令和3年度決算・事業報告
令和4年度予算・事業計画
創立150周年記念事業ほか

○記念講演 15:30
講師 佐藤巨光氏（昭和63卒）
有人宇宙システム株式会社 ISS
利用運用部長兼新事業開発室長
演題 「国際宇宙ステーション完成までの道のりと、これからの商業利用」

○交流会 16:40
※参加費無料 お茶をご用意します。
久しぶりに顔を合わせる仲間と自由に歓談できるよう、テーブルに年次、支部、部活など目印の立札を置きます。記念事業PR、グッズ頒布コーナーも設置。

○申し込み
ご出席の方は、同封のハガキに必要事項を記入の上、63円切手を貼り、6月16日までに到着するように同窓会事務局にお送りください。FAX、Eメールでのお申し込みも可能です。

【同窓会事務局】
F A X 018-832-9588
Eメール aki-doso@cna.ne.jp

天上天下 TENJO TENGE

ウクライナ首都キエフ（キエフ）近郊のブチャから世界に配信された民間人とされる多くの遺体が野ざらしになっている映像を見て以来、これまで感じたことのない危機感にさいなまれている。露軍の撤退後にウクライナ当局や国際メディアが入り、その場で見た情報をむき出しのままSNSで一斉に配信した。大量虐殺、ジェノサイドという言葉が小説の中だけではなく、現実にあることを今更ながら思い知らされた▼また日本周辺では北朝鮮が大陸間弾道ミサイルの発射実験を行い、日本の排他的経済水域内に落下した。米国全土が射程距離と言われる。さらに昨年8月末、駐留していた米軍が撤退し、タリバンが政権を掌握したアフガニスタンでは露軍のウクライナ侵攻で国際社会の関心は薄まると共に、人道支援はさらに滞り、テロ組織は勢いづいて、市民は一段と厳しい日常を強いられている▼米国が「世界の警察官」から降りて国際政治が多軸化し、世界のあちこちでマグマが爆発し流れ出した。液化化した世界は、既に戦争の時代に突入してしまったのだろうか。世界大戦は何としても回避しなければならない。